令和８年度全国社会就労センター総合研究大会（岩手大会）
分科会プログラムの概要

全国社会就労センター協議会

【分科会　日時】　令和８年９月３日（木）
15:30～18:00（150 分／休憩時間含む）

※　各会場は「最終のご案内」（8 月 27 日目途）における参加券等にてご案内いたします。
※　全体会の開会は、同日 10:30 です。

～以下は 6 月 30 日時点の予定につき、詳細は変更の可能性があることをご了承ください～

分科会①

福祉×ビジネス＝地域活性化　「開かれた施設」はどう作る？

～地域住民を巻き込むコミュニティ設計～

【現状・背景・課題】

- 利用者が自立した生活を営めるようにするために、工賃向上は就労系福祉事業所の大命題となるが、事業所単体での努力には限界がある。
- 一方で、地域の住民や企業と手を取り合い、「開かれた施設」としてビジネスを展開することで、事業規模を２倍、３倍へと飛躍的に成長させるとともに、地域の活性化や地域課題の解決につなげる事例が生まれている。

【協議のねらい】

- 地域を巻き込むための「仕掛け」や「コミュニティ設計」のつくり方について、クラフトビール事業の展開から地域活性化を成功させた具体的な事例をもとに、参加者が自施設で明日から実践できる「地域を巻き込むビジネスモデル」について協議する。
- ①「福祉×ビジネス」の視点転換：「支援・慈善」の枠を超え、地域を巻き込むビジネスとして工賃向上を捉え直すマインドを醸成する。
  ②成功事例の因数分解：クラフトビール事業の事例から、地域住民や企業が「応援したくなる／関わりたくなる」コミュニティ設計の共通ルールを学ぶ。
  ③自施設への落とし込み：　自施設が持つ強み（リソース）を棚卸しし、地域と掛け合わせるための具体的なアクションプラン（第一歩）を明確にする。
  以上を協議のねらいとする。

【進行・内容】

講義（実践事例）、グループワーク

分科会②
施設外就労を軸とした事業所経営のリアル！

【現状・背景・課題】

- 多くの福祉事業所において、事業所内作業や食品等の製造・販売だけでは高工賃、一般就労につながりにくいことから、より生産性の高い仕事（作業）への参加が求められている。
- 一方、企業側では、人手不足への対応や、多様な人財活用、SDGs といった観点などから、柔軟な関わり方であり実践的な仕事の場として施設外就労への関心が高まっている。
- しかしながら、福祉事業所側が施設外就労の導入に踏み込めない理由として、利用者の環境変化への対応、職場のルール・作業スピードへの適応が難しい場合があり、これらの課題を解消できる知識や経験、情報等が不足している。

【協議のねらい】

- 実際に施設外就労を導入し、地域トップクラスの高工賃を実践している事業所の報告と、「福祉だから」に頼らない価値の提案と適正価格を守る極意等に関する講義を行う。
- 事業立上げ時の苦労や業務管理のリアルな舞台裏を包み隠さず報告いただき、利用者･企業双方の満足を高めるマッチングの秘訣を理解し､「明日から動ける」具体的な手法を学ぶ。

【進行・内容】

実践報告、講義、クロストークとフロアからの質疑応答

分科会③
どうなる就労選択支援事業

【現状・背景・課題】

- 就労選択支援は、就労継続支援Ｂ型の新規利用希望者への原則実施に続き、今後は Ａ 型の新規利用希望者や就労移行支援の標準期間を超えて利用を希望する人への対応も見据えた運用が求められている。
- 一方で、就労選択支援を単なる「利用前の手続き」にとどめず、本人の理解を深め、納得感のある意思決定につなげる支援として定着させるためには、アセスメントの質の確保、中立性の担保、多機関連携会議の実効性、相談支援・教育機関・就労系事業所・行政等の役割分担、地域資源の偏在への対応といった、制度運用上の課題を地域ごとに整理する必要がある。

【協議のねらい】

- 就労選択支援の制度趣旨と最新動向を理解し、モデル事業等から見えてきた実践知をもとに、本人中心の意思決定支援を地域でどう具現化するかを協議する。
- とくに、①本人の自己理解を深めるアセスメントのあり方、②特別支援学校・相談支援・行政・就労系事業所の連携体制、③就労移行支援３年目利用等を含む支給決定・運用フロー、④中立性の確保と地域資源の整備、⑤令和９年度報酬改定に向けて現場から発信すべき論点、などを整理し、参加者の各地域での実践につなげる。

【進行・内容】

制度説明、パネルディスカッション（実践報告、参加者との質疑応答・意見交換）

分科会④
高齢化する障害のある人と医療、地域での暮らし

【現状・背景・課題】

- 障害のある人の「働く・くらす」を支える現場では、高齢化する障害のある人が働くとはどういうことか、慣れ親しんだ地域で暮らし続けるにはどうしたらよいか、といった高齢化にまつわる課題に日々直面している。
  「親なきあと問題」と言われることも多いこれらの課題の解決策は一つではなく、人の数だけ解決の方法があるからこそ複雑で、どのように備えておけばよいのか悩まれている支援者は多いのではないか。
- 社会福祉法人わたぼうしの会では、現場で直面した障害のある人の高齢化や障害の重度化という課題への対応をまとめ、他組織の取材も通じ、同じ課題に直面する人たちと知を分かち合う取り組みを、日本社会福祉弘済会の助成を受け、5 年間にわたり行ってきた。

【協議のねらい】

- 高齢化し、日常的に医療が必要になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには何が必要か。「いざというとき」や「親なきあと」の暮らしについて、本人の意思を尊重し、意思決定を行うにはどんな準備をしておいたらよいのか、について考える。
- 高齢の障害のある人の暮らしの場や、支える制度、地域との有機的なつながりなどについて、全国の先駆的な取り組みを共有し、参加者とともに協議する。

【進行・内容】

わたぼうしの会の研究報告、実践報告、クロストーク

分科会⑤
障害福祉 DX 最前線　～AI 活用の実践とこれからの課題～

【現状・背景・課題】

- 障害福祉分野において、生成 AI 活用による業務効率化（DX）への期待が高まる一方で、「一部の職員が活用しているようだけど、よくわからないから黙認している（シャドーAI）」「何から始めればよいかわからない」「セキュリティ面は大丈夫なのか」といった声が聞かれる。
- 今日の AI の進化や、対応する周辺のネット環境整備、またそれらにともなうセキュリティ対策やサイバーBCP の策定など、包括的な経営判断が求められている。

【協議のねらい】

- 施設経営において、AI とはどのように向き合い、使いこなしていけばよいのか。先進的に AI を活用し、DX に取り組む事業所の実践報告をもとに、AI による福祉 DX のメリットや課題、今後の展望、明日から取り入れられる具体的な AI との向き合い方等を対話形式でわかりやすく伝えながら、その答えを探る。

【進行・内容】

研修（AI 活用の注意点等）、実践報告、クロストーク